

平成 17 年度当初予算 重点プログラム別概要

絆 2：歴史的・文化的遺産等を活かした三重の魅力づくりプログラム

(主担当部局：生活部)

- (1) 歴史的・文化的遺産を活かした風情あるまちづくり推進事業
- (2) 文化戦略推進事業 (注)
- (3) 歴史的・文化的遺産を活かした県事業等の推進環境づくり事業
- (4) 歴史資料の保存活用環境づくり事業

<プログラムの事業費>

(単位：千円)

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	3 か年計
当初計画	26,898	29,000	30,000	86,000 程度
見直し後	26,898	15,269	17,000	59,167

注：見直し後の 16 年度は 12 月補正後予算額、17 年度は当初予算額、18 年度は同見込額
17 年度以降の見直し後の事業費は(2)の事業の事業費を除く。

<事業目標の見込み> 1 月末時点で把握できる見込み値を示しています。

目標項目		平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
(1) 歴史的・文化的遺産保全活用アドバイザー養成数(累計)	目標値		140 人	280 人
	実績値			
(2) グランドデザインを実現するアクション(展開事業)数	目標値		(注)	
	実績値			
(3) 歴史的・文化的遺産の保全・活用講座受講者数(累計)	目標値		100 人	200 人
	実績値			
(4) 県の資料の閲覧可能資料率	目標値	30 %	50 %	60 %
	実績値	30 %		

<進捗状況(現状と課題)>

- ・三重県内には、独自の歴史と文化から生まれた魅力ある遺産が数多く存在していますが、遺産そのものの価値が十分に認識されていないことから、地域において、これらの遺産の保護・保全が不十分であり、持続的・発展的な地域づくりへの活用につながっていません。
- ・これらの遺産を、地域の誇りにできるものとして、さらには、貴重な三重の魅力のひとつとしてとらえ、集客交流にもつなげる、個性ある地域づくりに活用していくため、地域住民等との協働による取組の充実、それらを支える人材の育成や仕組みづくりの推進等が課題となっています。現在は、来年度に実施する、歴史的・文化的遺産の保全活用について専門的見地からアドバイスできる人材を育成する講座のカリキュラム等の検討や、価値ある遺産の情報データベースの作成に係る具体的調査手法等の検討を進めています。

<平成 17 年度の取組方向>

・地域の歴史的・文化的遺産等を、地域住民が積極的に保全・活用するなど、三重の魅力の向上につなげる環境をつくるため、現在、高等教育機関との共同研究として実施している歴史文化的景観の保全・活用を効果的に進めるための仕組みづくりの検討成果を生かしながら、地域住民等との協働による多様なまちづくり活動や人材育成の推進、価値ある遺産の情報データベースの作成などに取り組みます。

<主な事業>

歴史的・文化的遺産を活かした風情あるまちづくり推進事業

【17 年度当初予算額 11,825 千円】

県内の歴史的・文化的遺産の保全・活用について専門の見地からアドバイスできる人材を育成するとともに、価値ある遺産の情報データベースを作成するなど、歴史的・文化的遺産を活かした風情あるまちづくりに向けた環境整備に取り組みます。

(注) 「(2)文化戦略推進事業」については、文化、歴史、景観、風情などの資産を活用したランドデザインを策定し、具体的アクションを展開する趣旨で本プログラムに位置づけましたが、今年度検討した結果、豊かな心や感性を育むとともに、活力と個性豊かな地域社会の形成に寄与するなど文化の多様な意義を踏まえ、「みえけん愛」を育む社会の形成を目指し、政策全体の考え方の基本となる「みえの文化力指針(仮称)」を策定することとしました。このため、取組の範囲が、本プログラムの趣旨よりも広がりをもち、県政全般にわたっていくことになることから、事業名を「みえの文化力指針(仮称)策定事業」に改め、17 年度以降の本プログラムの構成事業から除外して推進することとしました。